

令和6年度 道徳教育振興だより

滋賀の子どもたちにこころの元気を



道徳科を要とした道徳教育の充実

令和7年3月 滋賀県教育委員会

刊行に寄せて

滋賀県教育委員会事務局 幼小中教育課長 畑 稔彦

本県では、令和5年12月に「滋賀の教育大綱(第4期滋賀県教育振興基本計画)」を策定し、基本目標とサブテーマを「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり～『三方よし』で幸せ育む滋賀の教育～」と示しました。サブテーマにある「三方よし」の理念は、人は人と関わり合いながらよき自分、よき相手、よき社会を実現していくことを今日を生きる私たちに教えています。この考え方は、道徳教育の目標である「自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うこと」とつながるものです。道徳科の授業では、自分自身に関する事、人との関わりに関する事、集団や社会との関わりに関する事、生命や自然、崇高なものとの関わりに関する事について、学級の友だちと考え合うことを通して、自分の生き方について考えを深める学習をしています。子どもたちが、日常生活や今後出会うであろう様々な状況において、よりよく生きるために適切な行動を主体的に選択し、実践していくことができる力を育むことが大切だと考えています。

「令和6年度 よりよい生き方を実践する力を育む道徳教育の推進事業」の各推進校においては、全教育活動を通じて行う道徳教育の充実とともに、各校の実態に応じた道徳科の授業づくりを進めていただきました。本冊子には、その成果を掲載しています。

各学校におかれましては、ここに挙げた事例を参考にいただきながら、子どもたちの豊かな心を育むため、組織的な道徳教育の推進に努めていただければと存じます。また、本冊子の事例が、学校はもとより、家庭、地域社会における道徳教育推進のために御活用いただければ幸いです。

目次

□刊行に寄せて	幼小中教育課	課長 畑 稔彦	
□「大人になるってどういうこと？」	滋賀県道徳教育推進協議会	会長 押谷 由夫	1
□「子どもたちに大人へと成長することの自覚と誇りを」		押谷 由夫	2～3
●各発達段階における道徳教育の方向性や目標			4
●各校園の道徳教育の取組例			
・草津市立老上こども園			5
「多様な気持ちに共感する経験を積み重ね 道徳性の芽生えを育む ～一人ひとりの経験や思いをみんなのものに～」			
・高島市立安曇川中学校区			6～9
「道徳的価値に対する考え方や生き方を問う発問と、 子どもたちが発言を繋いで考えを深めていくための教師のファシリテートの工夫」			
・守山市立小津小学校			10～11
「話したい・聞きたい・やってみたい～実践化につながる道徳の人間づくり・授業づくり～」			
・滋賀県立水口高等学校 「自らを大切にし、人も大切にする心の醸成を目指して」			12～13
●チーム高島で取り組む「つながり響き合う道徳教育」(高島市教育委員会)			14
●子どもの心に響く道徳教育～め・た・ふで育てる守山の道徳～(守山市教育委員会)			14
●社会での誠実な生き方や他者への思いやりを育てる道徳教育(滋賀県PTA連絡協議会)			15
●学生食堂「[LOCOごはん]～とにかく忙しい高校生に地域でできること～(合同会社LOCO)」			15
●子ども・若者が「生きていける」と思える場所を地域に広げたい(あいとうふくしモール)			16
□資料1 道徳教育&道徳科の推進チェックポイント			16
●自ら課題をもち、考え続ける「特別の教科 道徳」の在り方 ～多様な考えに気付く展開の工夫～(滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会)			17～18
●学校・家庭・地域社会で豊かな心を育む(滋賀県道徳教育推進協議会)			19
□資料2 道徳科学習指導案の様式(参考例)			20
□資料3 日々の授業構想お役立ちシート(参考例)			21

表紙について

題名「夏休みの通学路」(第71回滋賀県教育美術展 特選)

この作品は、夏の通学路を描いたものです。田上は、空が広く、自然が豊かな場所です。そんな田上の自然の美しさを表現するために、色の配合や構図など様々な工夫を施しながら描きました。

大津市立田上中学校1年 中村 晴信

大人になってどういうこと？

押谷 由夫

いつも不安なニュースが流れてくる
コンピュータなどすごいものがでてくる
社会は常に^{つね}変化し、どうなるのかもわからない
不安はつるばかりかもしれない

でも、あなたは^{かくじつ}確実に大人に向かって成長している
どのような社会になろうと
どのような^{じょうきょう}状況で生活していようと
大人になる自分を^{はな}離れて生きることはできない

世の中が、^{よそくあんのう}予測不能であればあるほど
あなた自身を強くしていかねばならぬ
自らが、自分と社会の未来を切り^{ひら}拓いていく
それが、大人になるということなのだ

そのためには何が必要だろう
いまをしっかりと生きることである
いまのあなたが積み重ねられて大人に成長していく
学校はそのための^{けいけん}経験をする場なのだ

大切なのが、自分との対話を深めていくこと
あなたはどのように自分に話しかけているだろうか
いやなことがあると^{いか}怒りを^{ばくはつ}爆発させる
まあいいかと^す過ごしてしまう
それでは、自分と対話をしていることにはならない

少し冷静になって、どうしてそうなったのかを考えてみる
そこから自分との対話が始まる
^{じょじょ}徐々に相手のことも考えられるようになってくる
そして、いろんな^{じょうりょ}状況を考慮してどうすればいいかを考える

このことを^く繰り返すなかで、自分自身の成長を実感すること
そのことが新しい自分、新しい社会を^{つく}創っていくことになる
それは、大人になってからも続いていく

学校での生活すべてが、このことにつながっている
道徳の授業は、その^{かなめ}要となる
さあ、前を向いて、大人への^{かいだん}階段を歩み続けよう

子どもたちに大人へと成長することの自覚と誇りを

押谷 由夫

学校教育は、未来を心豊かにたくましく生きる子どもたちを育てるところです。その未来を、今の子どもたちはどのようにとらえているのでしょうか。

科学技術の急速な発展によって、世界規模で急速に変化する社会になっています。生成AIの発明によって、人間をはるかにしのぐ人工知能が開発されていきます。戦争も起きています。地球環境も悪化しています。これからの未来はどうなるのでしょうか。不安が募ります。さらに、日本の現状は、失われた30年等と言われて、世界のトップレベルにあった経済力もGDPも低迷している現状が指摘されます。これでは、未来に希望がもてなくなります。

しかし、子どもたちは、頑張っています。国際的な学力調査でも、世界のトップレベルを維持しています。その子どもたちの頑張りを、未来への希望へとつないでいかななくてはなりません。それには何が必要でしょうか。最も大切なことは、「子どもたちに大人へと成長することの自覚と誇り」を培うことです。そのためには、どのようなことが求められるのか。皆さんと一緒に考えてみましょう。

自分軸を強くすることが大切

変化の激しい社会においては、常に急かされます。そして、変化に適応していくための教育が求められます。その中で生活する子どもたちは、ますます不安になり、引きこもったり、今を楽しめばよいという刹那的な思いに駆られたりすることも起こってきます。それは、変化する社会を軸にしてどう適応するかを考えているからです。

確かに、私たちは社会の中で生きていかねばなりません。しかし、その社会を創っているのは、私たちなのです。主役は、私たちであり、私たちが、新しい社会を創っていくという意識をもつことによって、生きがい感ややりがい感が生まれ、未来に希望や夢をもつことができます。それは、新しい自分を切り拓いていくことでもあります。

つまり、どう生きるかを考えるのに、社会を軸にして考えるのではなく、自分軸を確かなものにして、社会の中で自分がどう生きるかを考えるようにすることが大切なのです。大人になるとは、この自分軸を強くして社会と関わりながら、新しい自分、新しい社会を切り拓いていくことだと言えます。

では、どのようにして、自分軸を強くしていけばよいのでしょうか。それには、「自己との対話」を深め、大人へと成長していることを実感できるようにすることです。そのために大切なこととして、次の点が挙げられます。

今の自分を丸ごと認め、受け入れること

自分軸を確かなものにしていくには、まず、今の自分を丸ごと認め、受け入れることが必要です。今の自分をどう認識するかは様々です。よいと思うところも、よくないと思うところも、丸ごと包み込んで自分自身なのです。子どもたちは、自分のよくないところをよく知っています。そのことを中心に考えると、自己肯定感は育ちません。よいところだけを見るようにしていると、落とし穴にはまることもあります。よいと思うところやよくないと思うところは、主観でいいのです。自分で自分を認めるためには、まず主観的な認識が必要です。ここを出発点として、少しでも自分の成長を実感できるような対話を始めていくのです。

今の自分にプラスされたものを確認すること

子どもたちは、毎日学校で勉強をします。それぞれに授業の課題があり、分かったり、分からなかったりします。できたり、できなったりします。その時々、分かったこと、できたことを確認します。それは、今の自分にプラスされたことです。では、分からなかったこと、できなかったことをどうするのか。なぜだろうかと考える。質問したり、調べたりして、少しでも分かってもらう。それも今の自分にプラスすることになります。

このような考え方は、全てのことに当てはまります。今日よかったことを振り返る。それはプラスされたことです。よくなかったことは、なぜよくないと思うのかを考え、どうすればよかったかを考える。そこからプラス思考になっていきます。

自分を見つめる基準を多様にする

大人になるということは、よりよい自分、よりよい社会を創っていくことです。今の自分にプラスされるものが、よりよい自分、よりよい社会づくりへとつながるものであることが大切です。

授業で学んだことが、分かった、できるようになった、で終わるわけではありません。それでは、知識や技術を増やすだけになってしまいます。そのことがよりよい自分づくりにプラスになった、みんなとよりよい社会を創っていくのにプラスになった、という意識をもてるようにするのです。

人間には、よりよく生きようとする心があります。よりよく生きるとは、価値志向の生き方ができるということです。それが人間の特質です。人間として成長するとは、よりよく生きようとする価値意識(道徳的価値意識)を、自分らしく育み、追い求めることだと言えます。そのことを実感できることが、人間としての成長であり、誇りでもあります。

道徳科の授業は、そのための要の役割を果たします。様々な魅力的な教材や友達の意見、先生からの問いかけ等を通して、多様に道徳的価値意識を育てていきます。そのことによって自分自身との対話を深め、人間として成長している自分を確認し、更なる成長へと目を向けていくのです。

実際に取り組んで成長を実感すること

よりよい自分、よりよい社会を創っていくためには、考えたことや気付いたことを実際に取り組んでみる必要があります。実践しようとする取り組み自体が成長なのです。それは、すべての教育活動や日常生活の中で取り組まれます。よりよく生きようとして成長している自分を実感し、更なる課題を見いだしていきます。

記録に残し、振り返ること

そのために大切なのが記録に残すことです。道徳科の教科書や資料、そして、授業で考えたことや自分と対話したこと、その発展として取り組んだことや気付いたこと等を記録したノート(1人1台端末に記録することも)を大切に保管して、時々振り返ってみる。そこからまた、自分の成長を実感し、新たなプラスを追い求めていくことができます。

各発達段階における道德教育の方向性や目標

高等学校



校種間の連携を意識しながら各発達段階における取組を充実させることが重要です。

*赤字は発達段階による違いです。



道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、**生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し、人間としての在り方生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。**

(高等学校学習指導要領 第1章 総則 第1款2の(2))

道德教育の目標

中学校



第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を**広い視野から**多面的・多角的に考え、**人間としての生き方**についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道德 第1)

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、**人間としての**生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。

(中学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2の(2))

特別の教科 道德の目標

小学校



第1章総則の第1の2の(2)に示す道德教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道德性を養うため、道德的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、**自己の**生き方についての考えを深める学習を通して、道德的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

(小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道德 第1)

道德教育の目標

道德教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、**自己の**生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道德性を養うことを目標とすること。

(小学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2の(2))

幼児教育



「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」より
(4)道德性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(幼稚園教育要領 第1章 総則 第2の3の(4))

各校園の道徳教育の取組例

多様な気持ちに共感する経験を積み重ね 道徳性の芽生えを育む ～一人ひとりの経験や思いをみんなのものに～



草津市立老上こども園

https://www.city.kusatsu.shiga.jp/shisei/sisetsuannai/kodomo/kodomoen/k_oikami/index.html

遊びの振り返りから それやったら、～してみたらどう？いいね!!

園では、遊んだ後に遊びの振り返りをしている。楽しかったことや嬉しかったこと、発見したこと等を、みんなの前で発表できることを誇らしく感じている子どもたち。時には、友だちの困りごとと一緒に考える場面や、友だちの悲しかったことや悔しかったことに気付いたり共感したりする場面も見られた。

〈振り返りの様子〉

- A児「レストランにお客さんが来ないのは、つまらない。」
B児「ずっと声を出していたのに、あんまり来てくれなくて嫌やった。」
教師「そう。ずっと困ってたのね。〈共感〉みんなはどうだった？〈問いかけ〉」
C児「私は(レストランに)行ったよ。でも、何回も行けない。」
D児「私も。今日はアクセサリーを作りたいから。」
C児「私たちのお店も、もっとお客さん来てほしかったな。」
教師「何かいい方法はないかな…〈問いかけ〉」
E児「それやったら、交代でお客さんしたらどう？時間を決めて！」
A児「いいね、(お店屋さんもお客さんも)どっちも楽しめるね。」
D児「小さい組さんも呼んでみようよ！」
全員「いいね！そうしよう」



お店屋さんごっこの振り返り

人権集会の取組から 私やったら、悲しくて泣いちゃう。

園で実際に起こったエピソードを基に、担任と人権教育担当がペープサートを創作した。園児は話を聞いた後、小集団に分かれて、感じたことや自分だったらこんな時どうするのか、意見を交流した。

〈意見交流の様子〉

- A児「見ていないのに、勝手に決めつけるのがよくなかったよな。」
B児「いつもふざけてるから、○さんのせいって言われたのかな。」
C児「でも、やってないのに決めつけられたら、○さん嫌な気持ちやったと思うよ。」
A児「傷つくよな。決めつけるのはよくないな。」
D児「私やったら、決めつけられたら悲しくて泣いちゃう。」
B児「見てないのだったら言わない方がいいよな。」
D児「△さんも作品が落ちて壊れていたのに、誰にも気付いてもらえなかったのがかわいそうやったね。」
C児「決めつけるのも、知らんぷりもよくないよね。」
全員「うん、そう思う。」



人権集会 5歳児12月

成果と課題

- 遊びの振り返りを積み重ねてきたことで、他者の気持ちに共感することと教師や友だちに共感してもらった経験とが相まって、子どもたちに共感性や協同性、思いやり等が育ちつつある。
- 人権集会では、5歳児クラスにおいて小集団で話し合いをしたことにより、より親身になって自分の気持ちと重ねながら登場人物の気持ちを考える姿が見られた。自分や他者のことを考え行動しようとする気付きや気持ちが育ってきている。
- 教師の問いかけが子どもの気付きや考えるきっかけになることも多いため、他者の気持ちを推測することを支えながら、自分事として考えるにはどういう問いかけがよいのか、より研鑽に努めたい。
- 今後も園生活の中で、実際に子どもが体験する葛藤やつまずきを通して、自分の気持ちを調整し、他者とともによりよく過ごし、素直にのびのびと生活できる力を養いたいと考える。

道徳的価値に対する考え方や生き方を問う発問と、子どもたちが発言を繋いで考えを深めていくための教師のファシリテートの工夫

高島市立安曇川中学校

〈https://www.city.takashima.lg.jp/kosodate_kyoiku/kosodate/2/5/1/index.html〉

高島市立安曇小学校

〈https://www.city.takashima.lg.jp/kosodate_kyoiku/kosodate/2/4/2/index.html〉

高島市立青柳小学校

〈https://www.city.takashima.lg.jp/kosodate_kyoiku/kosodate/2/4/7/index.html〉

高島市立本庄小学校

〈https://www.city.takashima.lg.jp/kosodate_kyoiku/kosodate/2/4/8/index.html〉

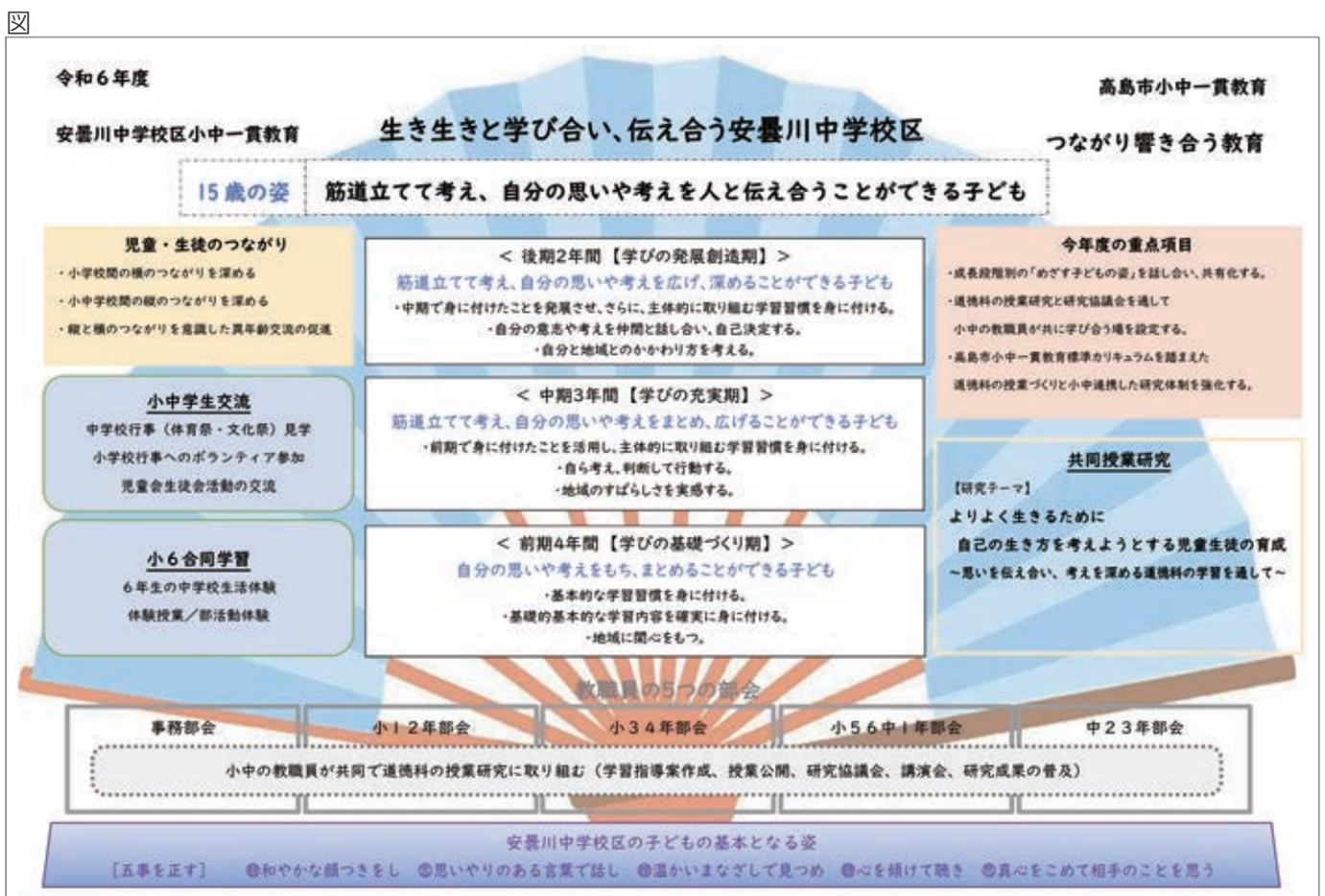


よりよく生きるために自己の生き方を考えようとする児童生徒の育成 ～思いを伝え合い、考えを深める道徳科の学習を通して～

「筋道立てて考え、自分の思いや考えを人と伝え合うことができる子ども」を育成する小中一貫の目標を踏まえ、思いを伝え合い、考えを深める道徳科の学習を目指し、道徳的価値に対する考え方や生き方を問う発問を大切にしたい授業構想と、子どもが発言を繋いで考えを深めていくための教師のファシリテートを重視した授業展開に焦点を当てた実践的研究を推進した。

取組 1 小中一貫教育を軸にした道徳授業の研究体制

下図に示したように4・3・2年制で区分した発達段階における目指す子どもの姿を安曇川中学校区3小・1中学校の教員が共有し、道徳の授業づくりにかかる全員研修、小・中学校の教員が所属する各部会での指導案検討、授業参観、研究協議など、小・中学校の教員による共同授業研究に取り組んだ。



研究内容を、「道徳的価値に対する考え方や生き方を問う発問を大切にした授業構想」と、「子どもが発言を繋いで考えを深めていくための教師のファシリテートを重視した授業展開」の2点に焦点化した。小・中学校の教員が共同し、外部講師を招聘しての研修を行ったり、指導案検討や授業参観・研究協議等を行ったりする等、研究を推進する中で実践的理解を深めた。

授業構想

考え方や生き方を問う発問

小・中学校の教員が共同し、子どもが道徳的価値に迫るための発問の構成について協議

【中心発問と発問構成】



小・中学校の教員が共同で協議

【前発問、中心発問の構成を検討】

- ① 教材文を精読し、指導者自身で該当する内容項目を考える。
- ② 主人公の道徳的価値にかかる心情が最も変化した場面*（道徳的な変容が大きいところ）を把握する。
- ③ 『道徳科「深い学び」のための内容項目ハンドブック』（畿央大学大学院 島恒生教授・日文教授用資料）を参考に、道徳的価値にかかる発達段階ごとのキーワードやポイントを掴む。
- ④ ②※の場面で子どもから引き出したい道徳的価値にかかる「子どもの言葉」を、子どもの実態を踏まえて想定する。
- ⑤ これらを踏まえ、道徳的価値に対する考え方や生き方を問う、子どもの心が動く中心発問を考える。
- ⑥ 道徳的価値に対する主人公の道徳的問題を明らかにする前発問を考える。この際、中心発問で子どもが道徳的価値に迫れるよう、前発問に対する「子どもの言葉」を生かし、中心発問で子どもが道徳的価値を見出すことができるような前発問になっているか留意する。

授業展開

教師のファシリテート

子どもたちが発言を繋いで考えを深めていくための教師のファシリテートを十分にシミュレーション

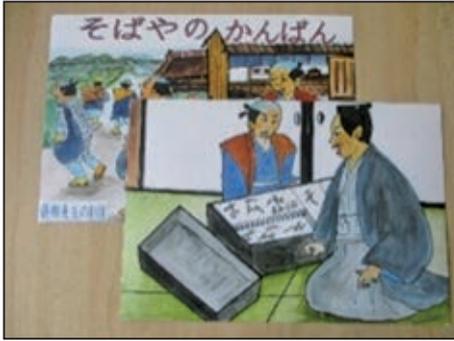
【問い返しや揺さぶり】



ミニホワイトボード（涙型ボード）を活用したファシリテート

【思考を促す問い返しや揺さぶりを想定】

- ① 問い返しは発言した個人に返すと対話が閉じてしまう。広げる対話にするため全体に返す。
「みんなはどう思う？」
- ② 子どもの思考を広げる問い返しとして、「自分に対してはどうか？」「相手に対してはどうか？」「みんな（学級）に対してはどうか？」等、発問に対する視点を与える。
- ③ 子どもの思考が道徳的価値から離れている際の問い返しとして、前発問に対する「子どもの言葉」を生かせるよう、主人公の道徳的問題に改めてクローズアップする問いを行う。
- ④ 子どもの実態が道徳的価値に近い際には、類似する日常生活での問題を取り上げる等、思考を深める問い返しを行う。
- ⑤ ミニホワイトボードに書かせた個人の考え（キーワード）を黒板に貼り、問い返したり揺さぶったりして教師がボードを動かしながら子どもの考えを整理し、道徳的価値に近づいていく手法も有効である。



藤樹会作成 紙芝居

高島市安曇川町出身である陽明学者 中江藤樹(1608-1648)は、人としての生き方を説き、門下生がその教えを後世に伝えられるように残している。

安曇川町教育委員会(昭和46年)によって編纂された『藤樹先生』は、小学生が理解できるようにまとめられたものである。高島藤樹会教材作成委員会は、その中の話を紙芝居で表現し、広く子どもたちに親しんでもらうようにしている。安曇川中学校区の各小学校では、この紙芝居を道徳科や総合的な学習の時間に活用しており、道徳科では、中江藤樹の人柄や誠実さについて学び、道徳的心情を育むようにしている。

地域教材を用いることのよさ

- 地域に伝わる身近な話なので親しみがあり、大人になっても学習したことをよく覚えている。
- 地域を誇りに思う気持ちを養うことができる。

地域教材を用いるにあたり留意していること

- 時代背景、資料の内容が理解できるように工夫する。
現代では使われていない用語や当時の人々の生活環境を理解するために事前に説明をしたり、登場人物の心情に迫れるように役割演技や場面再現を取り入れたりする。
- 道徳的価値に迫れるよう中心発問を熟考する。
紙芝居は道徳教材として作られているものではないため、道徳的価値に迫るために、ねらいとする内容項目や中心発問・発問構成について熟考し、子どもの発達段階に合わせた無理なくよりよい授業の流れになるようにする必要がある。

登場人物の心情に迫る工夫



「車が田に落ちた」での役割演技



「そばやのかんばん」では、実際に児童が看板を書く場面を再現

成果と課題

- 中心発問は、「主人公の道徳的価値にかかる心情が最も変化した場面」、「道徳的価値に迫ることができる場面」で、内容項目から指標となる子どもの発言を想定した上で、道徳的価値に対する考え方や生き方を問う発問を熟考するものであるという共通理解が深まり、発問の質が高まった。
- 中心発問に対して子どもの思考が停滞した時の思考を促す問い返し、揺さぶり等ファシリテートの在り方について、具体的な視点を与えたり、前発問に対する「子どもの言葉」を生かせるよう、主人公の道徳的問題にクローズアップしたりするなどの実践的理解を深めることができた。
- ミニホワイトボード活用による対話・交流では、子どもの生の言葉を教師がファシリテートしやすくなるとともに、交流中にボードの位置が変わることで、子どもが自身の考えの位置や視点への理解を深めつつ、多面的・多角的な考えを認識しやすくなった。
- 「授業構想1枚ビジュアル」で授業構想と授業展開を練ることが結果として構造的な板書に繋がった。
- 子どもの実態が教材と近い時は教材に引き込み、遠い時は教材から離れ日常に引き込む発問に繋ぐといった教材と子どもとの距離の実態の見極めが難しいことがあった。子どもの反応を蓄積して研究したい。
- 対話が難しい学級でも、子どもがやってみようと思える動きのある対話・交流の実践を積み重ねたい。

話したい・聞きたい・やってみたい

～実践化につながる道徳の人間づくり・授業づくり～

守山市立小津小学校 (https://city-moriyama.ed.jp/s-ozu/)



豊かな心をもち、主体的に考え意見を交わす「特別の教科 道徳」の実践 ～相手の気持ちを感じ、自らの思いを伝えられる子どもの育成～

1年次の研究から「導入の工夫」「板書の整理」「考えを表す多様な方法」等、授業づくりの成果が見えてきた一方で、児童意識調査の結果から「実践化」と「学びの実感」が課題となった。それらを基に、道徳教育全体を通して、相手を思いやり、自ら考え、実践できる子どもを育てる実践研究を推進してきた。

取組1 「話したい」「聞きたい」思いを高める授業づくり

守山市では「め(めあて)た(探究)ふ(振り返り)」で授業づくりを行っている。道徳科における「めたふ」のそれぞれの段階で大切にしたいことについて実践を通して確認している。

め 導入の工夫 ～子どもの「おや?」を引き出す～

- 子どもが課題意識をもち、切実感や必然性をもって考えようとするような導入を行う。
- 子どもの実体験やアンケートを基に学習をスタートすることで、本時に考えさせたい道徳的価値と子どもとの距離を近付ける。(価値への導入)
- お話の内容、題材に関わるBGMや映像で、教材と子どもとの距離を近付ける。(教材への導入)



実物でバトンのイメージをもつ



「ありがとう迷惑」の言葉から親切についてとらえ直す



冬山のBGMでお話の場面をイメージする

た 考えの見える化 ～多様な方法で見える化!板書で思考の流れが見える化!～

- 話したり、書いたりすることだけでなく、考えを表す方法を工夫することで、どの子どもも自分の考えをもち、意見交流に参加できるようにする。
- 意見交流の前に、意思表示するツールなどを用いることで、その後の意見交流をしやすくする。
- 思考の流れがぱっと見て分かるように板書を整理することで、子どもがねらいに迫りやすくなるようにする。



役割演技で思いを出しやすくする



ネームプレートを用いた考えの表示



思考の流れを板書で整理

ふ

学びの自覚化 ～自分の生活を振り返り、価値をあたため、ねらいに迫る～

- 写真や掲示物等で、自分の生活を想起しやすくする。
- 導入やめあてに戻ることで、学習前後の自己の変容に気付かせる。
- 担任やゲストティーチャー等の説話で価値をあたため、実践意欲を高める。



学校長による説話



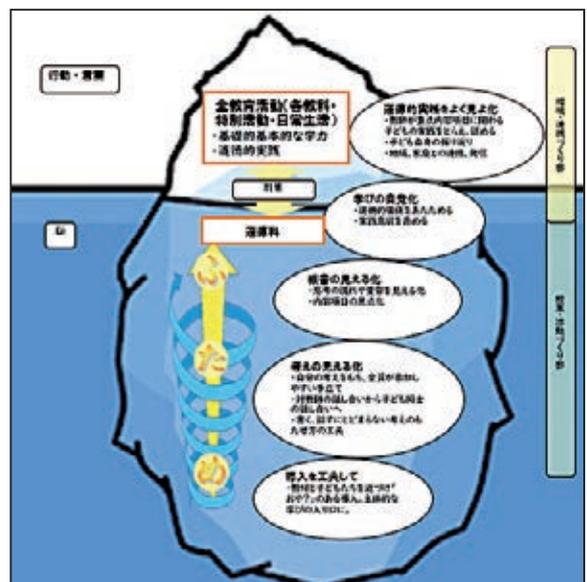
実物を提示しながらの説話



写真を見ながら自己の生活を振り返る

取組2 道徳的実践へつなげる ～発揮できる場づくり、教師の意図的な評価～

- 道徳科と他の教育活動を、別葉で関連付け、既存の教育活動の中で教師がより意識して子どもを見取り、子どもの道徳的実践を価値付ける言葉かけをすることで子どもが道徳性を発揮しやすい環境づくりを行う。
- 読み聞かせボランティアや校外学習等で関わりのある地域の方と連携を図り、より重点内容項目を意識した活動となるようにする。
- 委員会の活動や児童会スローガンを重点内容項目と関連付ける等、特別活動と連携させ、子どもたち自身が学校づくりの中で重点内容項目を意識できるようにする。



令和6年度研究構想図

取組3 日常的に道徳にふれる ～子どもも！職員も！～

- 校内の掲示板を活用し、重点内容項目に関わる姿を子どもが見つめてカードに書いたり、教師が見つけた姿を写真に撮ったりしたものを掲示板に貼り、意識付けを図る。
- 職員室に校内研究用の掲示スペースを作り、各学年の板書を写真で交流したり、別葉を掲示し、書き込み式にすることで常に更新していけるようにしたりする。



板書の交流スペース

成果と課題

- 子どもの思考が見える形にしていくことや考えを表現する様々な方法を取り入れることで、どの子ども学習に参加しやすく、思いを伝えたいくなる道徳の授業につながった。
- 教師が教育活動全体で内容項目を意識することで、子どもたちに返す言葉が変わったり、評価する場面が明確になったりした。それが子どもたちの実践意欲をさらに高めることにつながった。
- 板書の整理の仕方や教師の発問の仕方、問い返し方によって考えの深まりや広がりが大きく左右されることが改めて分かった。さらに研鑽を深め、授業力向上に努めたい。

自らを大切にし、人も大切にする心の醸成を目指して



滋賀県立水口高等学校 <<http://www.minakuchi-h.shiga-ec.ed.jp>>

わたしもあなたも世界にひとり!! ～かけがえのない一人ひとりを大切に～

学校教育を通じて自分も人も大切にできる仲間づくりや、人権学習、総合的な探究の時間等で「人としての在り方生き方」を考える取組を昨年度から継続実施。家庭・地域と連携しながら生徒の道徳性や道徳的実践力の育成を図る。

取組 1 「勇気づけ」教育の活動

(1) 各種委員会等での取組

委員会活動等、生徒が自分の役割を果たすことで、自己有用感を感じられるような取組を実践した。学園祭準備では、「今日のヒーロー&ヒロイン」として友だちのよいところを見つける取組を行った。



講演会で謝辞を述べる人権委員(2年生)



保健委員による歯科指導(全学年)



学園祭準備
今日のヒーロー&ヒロイン

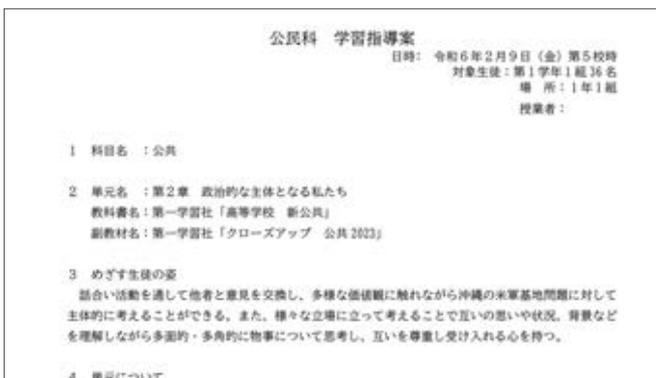
(2) 道徳だよりの発行

講演会後には振り返りの時間を設けている。生徒の様々な意見や感想を「道徳だよりで紹介している。生徒が物事を多面的・多角的に考え、人としての在り方生き方について再度考える機会となっている。同時に、自分の意見が掲載されることにより、自己肯定感が高まると考えている。



取組 2 授業研究の実践

高等学校には、教科「道徳」はない。学校の教育活動全体を通じて人間としての在り方生き方に関する教育を行うこととなっている。特別活動や総合的な探究の時間に道徳教育に取り組むだけでなく、各教科の授業の中で道徳的な内容を落とし込むことに取り組んだ。全ての教科において検討を重ね、実践例としての指導案作成を進めた。公民科「公共」において、研究授業を実施し、研究協議を行った。



科目「公共」の指導案(一部)

〈教員の感想から〉

“道徳”と言われても、教科の中にどのように落とし込んだらよいのかよく分からなかった。しかし、授業参観をし、多様な考えを知る機会をもつことや他者の意見を尊重する態度そのものも道徳だと分かった。

授業担当者の生徒への細やかな配慮を見習おうと、自分の授業を振り返る機会となった。

取組3 他者とのよりよい関係づくりの実践

(1) 道徳探究(1年生)

担任が、人生の先輩として、自身の生き方や価値観について生徒に語る時間を設けた。

〈生徒の振り返りから〉

まずは自分と向き合い、できることを精一杯やり、昨日以上に今日頑張りたい。そして、人との違いも認められる、人と助け合える人になりたい、と思った。

(2) 人権学習(2・3年生)

「一人ひとりの違いを認め合おう」をテーマに、障害者差別や性の多様性について学び、「違いを認め合う」とはどういうことなのかを考える機会とした。



多様性を考える講演会

取組4 地域交流活動の実施

(1) ボランティア清掃

地域の方と協力し、清掃活動を実施した。



学校周辺の清掃活動

(2) 煎茶道を体験(2年生 家庭科)

冷茶の淹れ方を地元の師範(本校同窓生)に教わった。

〈生徒の振り返りから〉

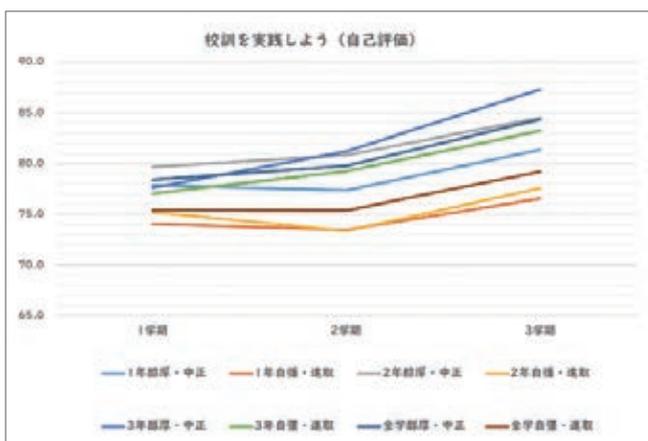
お茶の歴史について学べた。近年は、お茶農家が減っていると知り、もったいないことだと思った。



煎茶道体験

取組5 校訓の実践 未来をよりよく生きるために

本校の校訓「醇厚(じゅんこう)・中正(ちゅうせい)・自彊(じきょう)・進取(しんしゅ)」を実践することを目標に掲げ、学期ごとに評価を実施。学期を追うごとに、全ての学年で生徒の自己評価が高まった。3年生は、進路決定後の評価が高く、「進路実現に向けてとても頑張れた」というコメントが多数あった。



令和5年度アンケート結果

〈生徒の振り返りから〉

自分に自信、勇気をもつ。そして自分を好きになる。自分を認めることができればよりよく生きられるということは分かっているが、今の自分は自分自身と真正面から向き合うことができていない。だから私はまず、自分自身を見つめ直していくことから始めようと思う。

成果と課題

○仲間や教員に認められる機会が増え、希望の進路実現を果たすことで生徒の自己評価が全体として高まった。同時に、他者に対する寛容さも見られるようになってきている。

●生徒の自己肯定感は、全体としては上昇傾向にあるが、十分ではない。学校行事等の特別活動のみならず、各教科の中で意識して取り組む必要がある。今後も研修を積み重ねながら、道徳の観点を取り入れた授業実践の充実を図っていきたい。

チーム高島で取り組む「つながり響き合う道徳教育」

高島市教育委員会

(https://www.city.takashima.lg.jp/kosodate_kyoiku/kyoikuiinkai/index.html)



高島市では、「一人ひとりが高い志をもち、生涯にわたって学び、学んだことを人々のため、社会のために役立てようと行動するひとを育てる『高島の志の教育』」を学校教育の基本理念としている。現在、縦をつなぐ「小中一貫教育」、横をつなぐ「地域とともにある学校づくり」を推進し、市の重点項目をグランドデザイン(右図)で示し、高島の教育を「つながり響き合う教育」へと高める教育活動を展開している。

道徳教育の推進を図るため、大学教授からの指導助言や地域の方々の協力等を得て、各中学校区の特徴を生かした小中のつながりある授業づくりに取り組んでいる。



挑む(授業改善)

- ・自分事として深く考えられる発問や振り返りの工夫および自らの考えを広げ深める協働的な学びの場面の工夫
- ・道徳教育推進教師を中心とした若手教員による道徳科の研究授業の実施(OJT実践の場)
- ・校内研修の充実
- ・ICT機器を効果的に活用した授業実践



〈ICTの活用〉

つながる(連携強化)

- ・発達段階を踏まえた学年を横断した授業のつながり
- ・教科等横断的な授業のつながり
- ・学校・地域連携カリキュラムの活用および保護者、地域への道徳科の授業公開
- ・小中学校教員による共同授業研究
- ・地域教材の活用
- ・小中一貫教育連携カリキュラム(道徳科)の活用



〈地域教材の活用〉

響き合う(深め、広める)

- ・講師を招聘した夏季道徳教育研修講座、道徳教育研修会等の開催
- ・「研究所通信」による研究授業や研修内容の発信
- ・道徳教育推進協議会の開催
- ・市内教職員全員研修会の開催
- ・研修成果を市内全体へ共有する取組



〈高島市道徳教育推進協議会の実施〉

子どもの心に響く道徳教育～め・た・ふで育てる守山の道徳～

守山市教育委員会

(<https://www.city.moriyama.lg.jp/kosodatekyoiku/kyoikuiinkai/index.html>)



めたふで育てる 守山の道徳科

め

【めあて】

児童生徒が課題意識や切実感、必然性をもって考えようとする気持ちを高める。
(アンケート、子どもの実体験などからの導入)

た

【探究・追究】

友だちと意見を交わし考えを練り合うことで、同じ考え方や感じ方・違う考え方や感じ方に出会う。
(意思表示するツールなどの活用)

自分の考え方や行為を想起し、自分のよい面や弱さを見つめる。

ねらいとする価値について整理する。

ふ

【振り返り】

今日の学びを自覚し、道徳的価値をあたためたり実践意欲を高めたりする。

守山市では、しなやかに生きる力を育む取組として「気づき 考え 実行する」ための教育を進めている。守山市は青少年赤十字の発祥の地であることから、自然体験や地域と連携した社会体験等を充実させることにより、地域への愛着、自然や人を愛する思いやりのある心を育てている。

心つなげる

【小中連携】

中学校区ごとに小学校と中学校が連携している。9年間を見通して、授業実践と授業研究を充実させるとともに、学習環境づくりを進めている。

道徳科では、小・中9年間を通して、内容項目の系統的・発展的理解を深めるため、小・中の教師と一緒に研修を受け、学んでいる。



社会での誠実な生き方や他者への思いやりを育てる道德教育

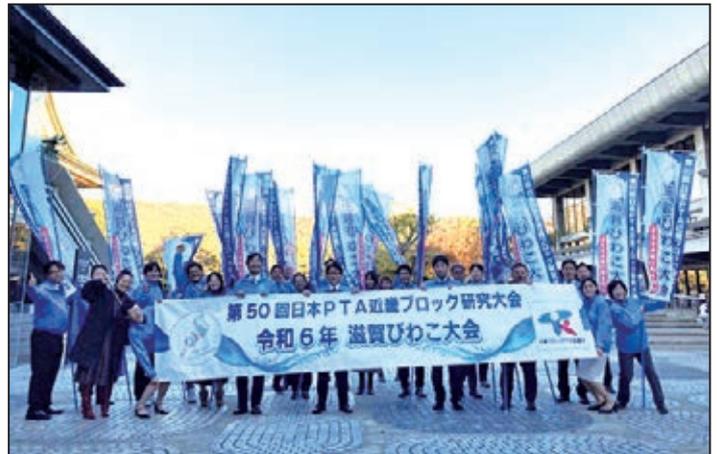
滋賀県PTA連絡協議会
(<https://www.shiga-pta.jp/>)



滋賀県PTA連絡協議会は、各校園のPTAや市町PTA協議会との緊密な連携を大切にし、子どもたちの将来を考えた活動を展開しています。私たちは、子どもたちに社会での誠実な生き方や他者への思いやりを育てる道德教育の振興のために、積極的に情報交換を行うことを推進しています。

令和6年度は、近畿各府県市のPTAのみなさんが集い、情報交換や発信、学びを行う日本PTA近畿ブロック研究大会が滋賀県で開催されました。子どもたちの心豊かな成長を促すために、家庭や学校、地域が連携し、責任をもって行動し、取組を進めていくことが必要であることが確認され、近畿各府県市の代表からの様々な取組に関する研究課題の報告や、特別講師による記念講演が行われました。

また例年県内各市町PTAの会長が情報交換を行う市町連P会長会を年に3回行っており、その他広報誌の発行等の取組を通して、各地域の活動内容や様々な課題、その対処等を学び合い、互いの活動の充実を図っています。今後も、家庭や学校、地域全体で子どもたちの健やかな成長を支えるための取組をサポートしていきます。



第50回日本PTA近畿ブロック研究大会滋賀大会

学生食堂【LOCOごはん】

～とにかく忙しい高校生に地域でできること～

合同会社LOCO

(<https://locoenjoythemommylife.com/>)



LOCOごはんは、お店の場所が長浜駅と隣接しており、高校生の姿が多く見られます。部活や学業、さらに塾と、とにかく毎日大忙しな高校生を見ていて、地域でできるサポートはないかと始めたのが、LOCOごはん(学生食堂)でした。

普段は、高校生を中心とし、高校のテスト期間に合わせて開催していますが、夏、冬の長期休業のときには地域食堂として未就学児や小学生を対象に地域食堂としても開催しています。



テスト勉強期間中
ちょっと一息♪
ゆっくり
過ごしてね

また昨年度からは、味の素グループ「味パンダ食堂」の取組、子ども食堂支援×フードロス削減プロジェクトに参加しています。食品の規定があるため販売はできませんが、まだまだ食べられる味の素食品を使って、地域の方にランチを提供し、美味しく食べていただいた代金を、次回子ども食堂の開催費にあてるというシステムを導入しています。

子どもたちには、地域に自分たちを見守り、応援している人がたくさんいるということを知ってほしい、そして子どもたちが温かな雰囲気の中で育ってほしいと願っています。

▽LOCOごはんについては、合同会社LOCOのHPよりご覧いただけます。



小学校の
長期休業を利用して、
地域食堂も
開催しています！

子ども・若者が「生きていける」と思える場所を地域に広げたい

あいとうふくしモール／若者の居場所OMUSUBI
(<http://honnaraya.fukushi-mall.com/>)



学校をやめたとき、仕事をやめたとき、子どもや若者は地域の中で行く場所がなくなります。若者の居場所OMUSUBIでは、そんな若者が安心して日常的に通える場所をつくりたいという思いで活動しています。

「居場所」を探している子どもや若者は、その地域で「生きていく場所」を必死で探しています。子どもや若者が今生きている自分の地域に自分の将来を展望するための居場所を探しているということです。家でも学校でも職場でも、評価される眼差しに慣れすぎて自分の思いを押し殺したまま苦しくなっている子どもや若者がたくさんいます。「こうあらねばならない」「普通はこうだ」を脇において、安心して弱音や本音をはける場所が地域に必要だと感じています。



OMUSUBIの活動&妄想図

資料1 道徳教育&道徳科の推進 チェックポイント

1 道徳教育推進教師を中心とした協力体制

道徳教育推進教師は、校長の方針のもと、全体計画や年間指導計画の立案、校内研修の実施、教材の充実・活用、家庭や地域との連携等、全校体制で取り組む道徳教育をコーディネートしましょう。

2 生きて働く全体計画

道徳教育の全体計画の作成に当たっては、理念だけに終わることなく、具体的な指導に生きて働くものになるよう、体制を整え、全教師で創意工夫を生かして、作業を進めましょう。

3 指導の効果を高めるための年間指導計画

年間指導計画は、各学校において道徳科の授業を計画的、発展的に行うための指針となるものであり、各学校が創意工夫をして作成されるものです。年間指導計画を活用し、指導の効果を高めましょう。

4 児童生徒や学級の実態に即した道徳科の指導

道徳科においては、各教科等における道徳教育と密接な関連を図りながら、年間指導計画に基づき、児童生徒や学級の実態に即して適切な指導を展開することが大切です。



文部科学省HPより
学習指導要領解説

あなたの学校の道徳教育と道徳科の授業についてチェックしてみましょう。



●小学校学習指導要領解説
総則編 P.128～

●中学校学習指導要領解説
総則編 P.131～ 参照

●小学校学習指導要領解説
総則編 P.132～

●中学校学習指導要領解説
総則編 P.135～ 参照

●小学校学習指導要領解説
特別の教科 道徳編 P.74～

●中学校学習指導要領解説
特別の教科 道徳編 P.72～
参照

●小学校学習指導要領解説
特別の教科 道徳編 P.78～

●中学校学習指導要領解説
特別の教科 道徳編 P.76～
参照

【研究主題】

「自ら課題をもち、考え続ける『特別の教科 道徳』の在り方」 ～多様な考えに気付く展開の工夫～

滋賀県小・中学校教育研究会道徳部会

1 主題設定にあたって

本研究は、3年間を一区切りとした継続研究である。昨年度は、「ねらいに迫る導入の工夫」について研究を深めた。学習者が「考えたくなる」課題設定や学習する意義への理解が大切であると再認識した。このことを踏まえて、今年度は、「多様な考えに気付く展開の工夫」について研究した。特に、道徳的諸課題を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉え、人間としての生き方についての考えを深めるとともに、一人ひとりの考えに触れ、尊重する学習展開をいかに進めていくか、検討した。

2 授業展開(例)

学習指導要領解説を読み、
指導の要点を捉える。

教材を通して、内容項目について考え、ねらいとする道徳性の諸様相を育てる。

- (1) 主題名 相互理解・寛容 【内容項目B-(9)】
- (2) 資料名 言葉の向こうに(出典：文部科学省「中学校道徳 読み物資料集」)
- (3) 本時のねらい

インターネット上のコミュニケーションで加奈子が気付いたことについて考えることを通して、人それぞれに、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心を持ち、謙虚に他者に学ぼうとする道徳的実践意欲を育む。

- (4) 本時の展開

	学習活動・主な発問	予想される学習者の反応	教師の支援と評価(◇)
導入	1. アンケート結果をみる。 ①他の人からのアドバイスを素直に聞くことができますか。 ②自分と意見(考え)が違う人のアドバイスを素直に聞くことができますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・①は、ほとんどの人がはいと答えるだろう。 ・②では、はいと答える人は減るだろう。 アンケートの結果を基に問題意識をもたせ本時のねらいにつなげる。 展開の時間を確保するため、教材を事前に読み、その感想について意見を交流することも有効である。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前アンケートの結果を活用し、価値への意識付けを図る。 学習者の実生活に触れ、本時の学習を自分の事やみんなの事と捉えるように工夫する。
ねらい 「自分と考えが違う他者から学び、自らを高めていくことについて考えよう」			
展開	2. 資料「言葉の向こうに」を読んで、話し合う。 ○「中傷する人たちと同じレベルで争わないで。」というファンからの書き込みを見たとき、加奈子さんはどんな気持ちだったでしょうか。 (補助発問) ☆なぜ、彼女は怒りを感じているのでしょうか。 ☆アドバイスされたことが正しいと感じながらも怒りをもっている彼女を、あなたは支持しますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・私は悪くないのに何で責められるのか分からない。 ・仲間と思っていたのに裏切られたようでショック。 ・確かに私も言い過ぎたのかも知れない。 学習者の意見を共感的に受け止める。 ・1人1台端末を活用して意見を共有する。また、考えた根拠やその理由、または少数意見について問うことで、考えを深めていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・正しいことを言っているのに。 ・どうして分かってくれないのか。 ・私のどこが悪いのか。 <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスは正しくても怒りの気持ちになるのは分かる。 ・アドバイスが正しい。そんなに感情的にならないで。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間から批判され納得できない気持ちや不安感、指摘されたことへの反省等の多様な思いを共有できるようにする。 教材の理解を助けるため、「人物の表情の絵」や「役割演技」、「心情メーター」等を取り入れるとよい。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分のものの見方や考え方にとらわれていることについて考えを深める。 ・誰しも、彼女とよく似た感情になることがあることも触れる。 ・一面的、表面的にならない発問をしていく。 ・物事を多面的・多角的に異なる意見が出るように工夫していく。

展開	<p>○「匿名だからこそ…顔を思い浮かべてみて。」という言葉を見て加奈子さんはどんなことを思ったでしょう。</p> <p>(補助発問) ☆みなさんの意見の中でさらに聞きたい意見、説明してほしい意見はありますか。 ☆どうして、加奈子さんは、あんなに怒っていたのにアドバイスを受け入れることができたのだろうか。</p> <p>◎加奈子さんが発見した「すごいこと」とは何でしょうか。</p> <p>(補助発問) ☆広い心で人と接することで、どんな効果があると思いますか。</p> <p>3. 自分の生き方を振り返る。 ○加奈子さんのように、自分と考えが違う他者から学び考えが変わったなということを出してみましよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分は、感情的になりすぎて、相手の気持ちを考えていなかった。 人それぞれに考えがあるから、相手のことを考えて話した方がよかった。 自分の気持ちばかりを伝えていてもコミュニケーションにはならないんだ。 指導者は学習者と学習者の意見をつなぐよう心がける。 指導者はいくつかの補助発問を用意して、学習者の実態に応じて問いを投げかけ、考えを深めていく。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の主張を守ろうとして感情的になっていたけれど、アドバイスを聞いて冷静に考えると、自分の駄目なところに気付けること。 アドバイスをしてくれた人の考えていることが分かると自分の考えも広がるということ。 <ul style="list-style-type: none"> 広い心で人と接すると、お互いが成長できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 板書は、キーワード等で端的に書く。 多様な意見を分類、整理する。 <ul style="list-style-type: none"> 1人1台端末を活用し、意見を共有し、多様な考えに触れられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> 学習者の意見を基に、考えを深めていく。 <ul style="list-style-type: none"> 実生活につなげ、本時のねらいに迫っていく。
終末	<p>4. 本時の学習を次の視点を基に振り返る。</p> <p>(視点の例) ア ねらいについて イ 考えたことについて ウ 今までの自分について エ これからの自分について オ 友だちの意見を聞いて感じたことや考えたことについて カ これからの生活について</p> <p>5. 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指導と評価が一体になるように振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> 今までは、自分が正しいと思っていたことばかり主張していたけど、相手の考えも聞いていくことが大切だと思った。 お互いが広い心で接して、感情的にならないようにしよう。 お互いの意見を聞き合うことで、お互いが理解できトラブルもなくなり成長できると思うので、これからはお互いの思いを丁寧に伝え合う関係をつくりたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 視点の例を参考にして、1人1台端末に書く。 1人1台端末を活用し意見を共有する。 後日、意見をまとめて、道德通信等で知らせ、次につなげる。 ◇寛容の心をもち、謙虚に他者に学んでいきたいという思いを自分との関わりで考えている。(発言・振り返り) 指導者も一緒に考えているという立場に立って説話をする。

実生活へとつなげ、自分やみんなの事として考える。

3 授業を展開するにあたって

- 指導者は、本時でねらいとする道徳的価値について、学習者とともに一緒に考えるという姿勢で授業を進めていく。
- 学習者が授業に主体的に取り組むため、実生活につなげる工夫をしたり、動作化や挿絵等を活用し教材理解を促したりする。
また、学習者の意見を傾聴し、人それぞれの考えを尊重することを大事にしていく。さらに、「学習者と学習者の発言をつなげること」を念頭において、学習者同士の対話が充実するように心がける。
- 物事を広い視野から多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深めることを念頭において指導者は補助発問をあらかじめ準備して授業に臨む。また、学習時間や学習者の実態を鑑み、より適した発問に絞っていく。
- 学級全体の意見を共有するため、1人1台端末を活用し多様な意見に触れるように工夫する。
- 学んだことを実感させるため、振り返りの視点を示し、個に応じたよさを評価していくようにする。また、授業で学んだことを生かすため、道德通信や掲示物で、みんなの意見を紹介したり、朝の会帰りの会や日常の学校生活で、折に触れて伝えたりする。



令和6年度道徳教育夏季研究大会模擬授業の様子

「道徳教育の充実に向けた推進協議会」での委員のみなさんの発言より

子どもの頃、自信がもてなくてつまずいてしまい、孤立してしまった若者と関わっていると、自分の話を安心してできないと感じている若者が多い。自分を受け入れてもらえる、自分で自分のことを大事にできるという感覚をもてるようにしていくことが大切だと感じた。

子どもたちが、学校で、自分より下学年の子と関わった話をしてくれる。思春期を迎える時に自分より小さな子と関われる機会があることは大切なことだと感じた。また、学級で友だちのよさを見つける取組をしていることも素敵だと感じた。

幼稚園でも子どもが「おや？」と思う瞬間を大切にしており、道徳科で大切にしていることと同じだと感じた。日々の生活でも仲間の思いを感じながら絶えず学ぶことができるのが道徳教育なのだろう。



道徳教育をベースに教育活動を進めている。意見を交流するには、まず聞き合うことが大事である。相手の考えを聞くことが人権の尊重にもなるし、相手を大事にしていることになる。生徒の意見を大事にしようとすることは生徒指導にも役立っている。

道徳の教科書の教材を読み始めると最後まで読みたくなる。大人になってもぐっとくるものだと感じた。自宅に教科書を持って帰って来てくれると学校でどのような学習をしているか分かり、家の中でも話ができると感じた。

学校が開発した教材や地域教材が使われなくなっているのはもったいないことである。年間指導計画の中にうまく使うように位置付けるとよいのではないかと。ただし、ねらいとする内容項目は同じであることが大切である。

	氏名	所属等
会長	押谷 由夫	昭和女子大学 名誉教授
副会長	凶司 裕子	滋賀県立水口高等学校 校長
委員	島村 恒平	あいとうふくしモール 主任
委員	宮本 麻里	合同会社LOCO 代表
委員	大音 貴司	滋賀県PTA連絡協議会 理事
委員	徳田 景子	草津市立老上こども園 園長 滋賀県国公立幼稚園・こども園長会 副会長
委員	中原 いずみ	高島市教育委員会学校教育課 主監
委員	田中 夕子	守山市教育委員会学校教育課 指導主事
委員	藤澤 三千代	守山市立小津小学校 校長
委員	西村 藤志男	高島市立安曇小学校 校長
委員	清水 佳治	高島市立マキノ中学校 校長 滋賀県中学校教育研究会道徳部会会長

資料2 道徳科学習指導案の様式(参考例)



道徳教育
アーカイブ

第○学年 道徳科学習指導案

日 時：年 月 日○校時
学 級：○年○組教室○名
授業者：職・氏名

- 1 主題名「○○○○」<内容項目>
※道徳科の年間指導計画における主題名を記載する。道徳科の主題は、指導を行うに当たって、何をねらいとし、どのように教材を活用するかを構想する指導のまとまりを示すものであり、「ねらい」とそれを達成するために活用する「教材」によって構成される。
- 2 教材名「○○○○」(出典：)
- 3 主題設定の理由
 - (1)ねらいとする道徳的価値について(価値観)
ねらいや指導内容についての教師の捉え方
 - (2)道徳的価値に関わる児童生徒の実態について(児童観・生徒観)
(1)に関する児童生徒のこれまでの学習状況や実態と教師の願い
 - (3)教材の活用について(教材観)
使用する教材の特質やそれを生かす具体的な活用方法
※記述に当たっては、児童生徒の肯定的な面やそれをさらに伸ばしていこうとする観点からの積極的な捉えを心掛けるようにする。また、抽象的な捉え方をするのではなく、児童生徒の学習場面を予想したり、発達の段階や指導の流れを踏まえたりしながら、より具体的で積極的な教材の生かし方を記述するようにする。
- 4 本時のねらい
※本時で特にどのような道徳性(心情・判断力・実践意欲・態度)を育てたいのかを記述する。
- 5 本時の学習指導過程
※一般的には、導入、展開、終末の各段階に区分し、児童生徒の学習活動、主な発問と予想される児童生徒の発言、指導上の留意点、指導の方法、評価などを指導の流れに即して記述することが多い。

学習活動・主な発問	予想される児童生徒の思い	教師の支援と評価(◇)
学習指導過程は、 1(導入) 2(展開前段) 3(展開後段) 4(終末)の4つ となる場合が多い。	• 予想される発言を分類して書く。 • 記述された発言から本時のねらいが達成されるか検討する。	• 「～としたい」という願いだけでなく、具体的な手立てを明記する。 ◇評価については、その内容と方法を書く。 (例：ワークシートへの記述)

- 6 事前・事後の指導の工夫(他教科等との関連)
- 7 評 価 ※展開の中に項目を設定して記載することもできる。
- 8 板書計画 ※板書の機能を生かすために重要なことは、思考の流れや順序を示すような順接的な板書だけでなく、教師が明確な意図をもって対比的、構造的に示したり、中心部分を浮き立たせたりするなどの工夫をすることである。
- 9 その他 ※座席表、教材分析、補助資料などを必要に応じて付記する。

ねらいに即して問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な方法を取り入れ、指導を工夫することが大切です。考えを交流する場面や学びを振り返り考えをまとめる場面などで、ICTを効果的に活用したり、学びを深める手立てとして、繰り返し発問や意図的指名などを取り入れたることも重要です。



資料3 日々の授業構想お役立ちシート(参考例)

毎回の授業で指導案を作成することは難しいですが、ねらいをもって授業ができるよう、計画をすることが大切です。日々の授業構想のポイントをまとめています。学校として残し、共有することもできます。参考にしてください。



白紙のシート
はこちらから



【主題名】		【内容項目】	
【教材名】		A	
		B - ()	
		C	
		D	

【今回育てたい道德性の様相】判断力 心情 実践意欲 態度

【ねらい】 (本時に考えさせたいことは何か。道德科の内容項目を基に、ねらいとする道德的価値や道德性の様相を端的に表したものを記述)

時間配分

※発問や指導で大切にしたいことを記入する。

0
45
50

導入

- 価値への導入・教材への導入
- 問題意識をもって授業にのぞめるか

展開

- ねらいに迫る中心発問はどれか
- 発問の数は適切か
- 書いてあること・分かりきったことを聞いていないか
- 児童・生徒の予想される発言は考えたか
- 予想される発言から本時のねらいが達成されるかももう一度検討したか
- 考えを深める問い返しは用意しているか

終末

- 振り返りで児童・生徒にどんなことを書いてほしいかイメージできているか

大切!

1時間を通して…

- ① 自己を見つめる学習
- ② 物事を多面的・多角的に考える学習
- ③ 自己の生き方についての考えを深める学習

が設定されているか

- ★ 話し合い活動の設定は？
- ★ ICTの効果的な活用？

【板書計画】

- ・ 場面絵や心情曲線、矢印、色等を工夫し、構造的な板書になっているか
- ・ 事前に準備しておいた発問のカードを提示していないか

【道德性の様相とは…】

道德的判断力：それぞれの場面において善悪を判断する能力

道德的心情：道德的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情

道德的实践意欲：道德的判断力や道德的心情を基盤とし道德的価値を実現しようとする意志の働き

道德的态度：道德的判断力や道德的心情に裏付けられた具体的な道德的行為への身構え



本冊子並びに過去の振興だより
(平成27年度～令和元・3～5年度)



滋賀県総合教育センター
ホームページ

令和6年度道徳教育振興だより
滋賀の子どもたちにこころの元気を
道徳科を要とした道徳教育の充実
令和7年3月発行

発行：滋賀県教育委員会
〒520-8577
大津市京町四丁目1-1